

令和7年12月19日

読谷村議会

議長 伊波 篤 殿

建設経済常任委員会

委員長 比嘉 幸雄



## 陳情第2号「読谷村下水道整備に関する陳情書」についての審査報告書

陳情第2号「読谷村下水道整備に関する陳情書」についての審査経過と結果を報告する。

本陳情は建設経済常任委員会に付託され、12月11日山城勝司上下水道部長他1人に出席を求め「近隣市町村の公共下水道整備率比較」「目標計画の提案」の説明後、各委員からの質疑形式にて審査を行った。

読谷村の下水道整備率が近隣市町村と比較して低い要因として、本村が宜野湾浄化センター（伊佐浜処理区）の末端地域となり、幹線管路の整備（県事業）が他市町村に比べ遅かったことが要因であると考えられる。

下水道は水道と同様に村民の日常生活に直結した重要なライフラインであり、快適な生活環境並びに健全な水環境を守る、重要な役割を果たしている。

読谷村では近隣市町村に比べ極端に低い普及率が大きな課題であるといえる。公共下水道への接続を推進するため、令和3年4月1日より接続補助金を増額し下水道接続普及促進業務として、読谷村シルバー人材センターに普及活動を委託し接続に対する啓発を行い、下水道接続に対するポスティング・FMよみたんでのPR・協力依頼も行っている。

下水道事業の取り組みに関しては、これまで「沖縄振興公共投資交付金」で整備を行い令和4年度から新たに「地方創生汚水処理施設整備推進交付金」を活用し事業に取り組んでいる。

本陳情は本村の下水道整備の遅れを危惧する思いは理解できるが、陳情者が求める目標計画の提案は県や本村の現状とはかけ離れており、実現は困難な状況である。討論の結果、本委員会は令和7年12月15日全会一致で不採択とすることに決した。